View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Osaka City University Repository

氏　　名	**李　友浩**
学 位 の 種 類	博士（　医学　）
学 位 記 番 号	第 6059 号
学位授与年月日	平成 26 年 6 月 30 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当者
学 位 論 文 名	**Clinical Impact of the Extent of Lymph Node Micrometastasis in Undifferentiated-type Early Gastric Cancer** **（未分化型早期胃癌におけるリンパ節内微小転移の広がりの臨床的意義）**
論文審査委員	主　査　平川　弘聖　教授　　副　査　鰐渕　英機　教授 副　査　角　俊幸　教授

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】
胃癌において、リンパ節転移は重要な予後因子であり、未分化型早期胃癌に対する術式は感動薬周囲リンパ節を含む D1+リンパ節郭清が標準である。本研究は胃所属リンパ節内の微小転移の個数と広がりについて検討し、適正なリンパ節郭清の重要性を明らかにすることを目的とした。
【対象】
1997 年から 2010 年までに当科で根治的胃切除を施工した未分化型早期胃癌 307 例を対象とした。
【方法】
9525 個の所属リンパ節の代表一切片に対する抗サイトケラチン抗体を用いた免疫組織染色により、リンパ内微小転移を同定し、微小転移の分布および予後との関連を検討した。
【結果】
微小転移は腫瘍径、深達度、リンパ節転移と関連した。微小転移の分布の検討では、3.9%（12 例）の症例に左胃動脈周囲および肝動脈周囲リンパ節まで広がりを認めた。微小転移をリンパ節転移として腫瘍進行度の再評価を行うと、10%(32 例)が stage migration を来し、有意に予後不良であった。
【結論】
未分化型早期胃癌において微小転移は胃周囲リンパ節より遠隔のリンパ節内にも存在しており、未分化型早期胃癌に対する本邦での標準治療である D1+リンパ節郭清の重要性が示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

早期胃癌の中でも未分化型早期胃癌はリンパ節転移を来しやすい。そのため手術でのリンパ節郭清範囲は胃周囲のみならず遠位側のリンパ節を含むリンパ節郭清が本邦において標準術式である。本研究は、臨床病理学的にはリンパ節転移とみなされない微小転移の有無と広がりについて検討し、その臨床的意義と適正なリンパ節郭清の範囲を明らかにすることを目的としている。

対象は 1997 年から 2010 年までに胃切除術を施行した未分化型早期胃癌 307 例である。方法は、抗サイトケラチン抗体を用いた免疫組織染色によりリンパ節内微小転移を同定し、微小転移の分布および臨床病理学的因子との関連を検討している。

その結果、微小転移は 41 例(13.3%)に認められ、臨床病理学的因子との関連では腫瘍径、深達度、リンパ節転移との相関が認められた。また、12 例（3.9%）に遠位である左胃動脈周囲、肝動脈周囲リンパ節に微小転移を認めた。微小転移を転移として腫瘍進行度(stage)の再評価を行うと、32 例（10.4%）に stage の進行（stage migration）を認めた。Stage migration を認めた症例は有意に予後不良であり、微小転移が予後に影響を及ぼす可能性が示唆された。以上の結果より、未分化型早期胃癌に対しては、リンパ節微小転移を考慮したリンパ節郭清が必要であることが示唆された。

本論文は、未分化型早期胃癌において、リンパ節内微小転移の臨床的意義と適正な切除範囲を明ら

かにしたものであり、胃癌治療の進歩に寄与するものと考えられる。よって、本研究は博士（医学）の学位を授与されるに値するものと判定された。